

水の文化22号予告

特集「温泉」(仮)

江戸の昔から温泉好きと言われるように
日本各地で温泉が
地域の観光資源となっています。
一方、温泉は共有資源の地下水として
守らねばならないことも事実。
観光資源と地下水資源のはざまで、
地元の人々は温泉と
どのように向き合っているのでしょうか。



湿度という気象条件に人々は衣食住でどう適応してきたか。そんな目論見で調査を始めると、つきあつたのは広大な空調文化の存在。そういえば子どもの頃住んだ家で、木の窓枠からすき間風が入ってきたことを思い出す。(中)

子供時代、年末のイベントの一つに、おじいちゃんとの障子張りがあった。手際よく障子を張り終えたおじいちゃん、最後に口に水を含んで障子に霧を吹き掛ける。真っ白な障子紙は、乾くにつれてピンと張り、おじいちゃんがとても格好良く見えたものだ。今の我が家には、残念なことに障子がない。(賀)

窓も開けずに室内が快適に制御され湿度を感じないお洒落な都心の超高層マンション。少々憧れもするが、隙間風の吹く木造一階建ての我が家が一番と確信。暑さ寒さ、風や雨音、鶯のさえずりや虫の音、沈丁花の香り・・・湿度の排除は、自然との共生や質の高い豊かな暮らしとの決別なのかもしれない。(ゆ)

水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください
本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などをご紹介してまいります。
ユニークな水の文化学習活動を行っている、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究を行っている、こうした情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。
ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください
<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで
本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。
すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

水の文化人ネットワーク 夏の登壇者
当センターホームページ・水の文化人ネットワークコーナー。
以下の方を順次アップロードしています。

安部浩 総合地球環境学研究所
木村武史 筑波大学哲学・思想学系助教授
サトウタツヤ 立命館大学文学部心理学科助教授

編集後記

もう既に感覚として忘れ去った感がある「蒸し暑さ」ではあるが、表現としてもジメジメだの、マイナスの言い方が多い気がする。古来より、冬の寒さより、夏の蒸し暑さへの対処を重んじてきた日本の住まいであるが、現在の住環境はどうなのか、一考の余地がある。(新)

酷暑のスーツ姿に耐えて、快適なオフィスでお仕事でも、エアコン排気は気にしない不思議さ。大切なのは環境を制するのでなく、うまく付き合うこと。クールビズの定着や、なごみスト体験で、暑さや湿度との付き合い方も少し変わってきた・・・一歩一歩だけ。(福)

エアコンの充実で、湿度との関係が薄くなる我々の生活でもそんな湿度と付き合うことで、良い事だつてイッパイあるんですよ。考えてみてください、エアコンが効いた部屋で飲むビールより、真夏に湿度ムンムンのピアーデンで飲むビールの方が、ずっと美味しいじゃないですか!(武)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第21号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

禁無断転載複写

発行日 2005年(平成17年)11月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所助教授
嘉田由紀子 京都精華大学教授 琵琶湖博物館研究顧問 水と文化研究会代表
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

編集 秋山道雄 新美敏之 今井福生 武本知之 小林夕夏
辻美代子 中庭光彦 於保実佐子 賀川一枝 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター
〒475-8585 愛知県半田市市中村町2-6
株式会社ミツカングループ本社 広報室内
Tel. 0569(24)5087 Fax. 0569(24)6353
ミツカン水の文化センター 東京事務局
〒143-0016 東京都大田区大森北2-2-10・4F
Tel. 03(5762)0244 Fax. 03(5762)0246

お問い合わせ